

会議の概要（要旨）

1	会 議 名	平成25年度第1回習志野市健康なまちづくり審議会
2	開 催 日 時	平成25年 5月8日（水）午後1時30分～午後3時15分
3	開 催 場 所	市役所仮庁舎3階大会議室
4	出 席 者	<p>委 員：堀部委員（会長）、島内委員（副会長）、村山委員、櫛方委員、山森委員、井上委員、押田委員、渡辺委員、後藤委員、高梨委員、手塚委員、戸倉委員、三代川委員（出席13名）</p> <p>（欠 席：宮崎委員、鈴木委員）</p> <p>事務局：真殿保健福祉部長、松岡保健福祉部次長、上岡健康支援課長、小林主幹、山口主幹、中村主幹、埴主幹、鈴木係長、河西副主査、鳥見副主査</p> <p>傍聴者：なし</p>
5	議 題 及び 会議の概要	<p>・傍聴人の確認→傍聴人なし</p> <p>○委嘱状交付</p> <p>○市長挨拶</p> <p>皆さんこんにちは。習志野市長の宮本泰介です。本日は大変お忙しいところ皆様にはお集まりいただきまして本当にありがとうございます。</p> <p>この審議会は、本年4月に施行されました（通称）健康なまちづくり条例という事で、皆様には色々な意味で参画いただき、皆さんと手作りで出来上がった条例でございます。</p> <p>この条例は、千葉県、あるいは全国の中でもこのような形で条例として位置付けるのは日本で初めてという事でありまして、画期的な条例と確信しております。</p> <p>このことに関しましては、これまでの審議の中で島内先生をはじめ、皆様にご尽力をいただきました。そのような形の中、4月1日から始まったわけでございますが、この審議会の中では、ヘルスプロモーションの第一人者であります島内先生、そして学校との連携とういことの中で、谷津小学校の押田校長先生にも参画をいただいたということでございます。</p> <p>この健康なまちづくりを、これから進行していくわけですが、健康と言いましても限りなくやる場合がございます。ですから、逆に言いますとこの条例が具体的な動きをしませんと、単なる理念条例で終わってしまうということでもあります。習志野市が、掲げたはいいけれど理念で終わってしまったのは、逆に言いますと日本で初めての条例を掲げておきながらたいしたことなかったということになってしまいますので、皆様にしっかりご審議をいただく中で、具体的に取り組むこと、基本計画であったり、そのようなことに関してご審議をいただく機会でございます。</p> <p>実は、この条例を12月議会に上程したわけですが、提案理由を述べている私が、風邪をひいておりまして、鼻声で提案をいたしました。すぐに反応がありまして、健康なまちづくり条例を標榜している市の市長が鼻声</p>

でどうする。と言われました。そのことによりまして、私は絶対に風邪をひけないという事でありまして、私が風邪をひけないという事は職員も誰一人風邪をひけない、体調悪くなれないということでありまして、より一層健康管理につきまして、夜の過ごし方も含めてしっかりと徹底をしなければいけないと、身を引き締めているところでございます。

皆様方におかれましては、それぞれ健康の第一人者ということの中で、色々なご意見を賜り、健康の秘訣の中で、私はいつも気持ちが明るく笑顔でいることも一つの事だと思っておりますので、和気あいあいと言うわけにもいきませんが、前向きな思考の中で皆様方に色々な場面で発言をいただいて、この条例を本当の意味での日本で輝く一つの健康の指標になりますようにしていただきたいなと思う次第であります。

終わりになりますが、それぞれ大変お忙しい中でこの審議会にご出席をいただいているということでございます。私たちもそのことをしっかり身に沁み込ませまして、この条例をみなさまの赴くように発展をさせていきたい、このことをお誓い申し上げまして、ご挨拶にかえさせていただきます。

○委員紹介

○職員紹介

○会長、副会長の選出

会長（堀部委員）挨拶

ただいま、ご推薦を受けました医師会の堀部です。どうもありがとうございます。習志野市で開業をして二十数年経ちますが、治療を休んだのは娘の入試の面接だけです。風邪をひいたり、体調を悪くして休んだことはないのですが、その辺で選ばれたのかなと思っております。

先ほど、市長から詳しくご説明がありました通り、習志野健康なまちづくり条例と言うのは、1年前から策定されまして、そして本年の4月1日より施行されました。これは非常に素晴らしい意義ある条例でして、健康なからだけでは個人だけで作れるものではなくて、それを後押しする市、あるいは各団体が後押ししなければ真の健康は勝ち得ないという事になります。今後この素晴らしい条例で問題なのは、どう具体化して、各団体が行動を取っていくか、それが一番重要だと思います。昨年度の2月に保健医療協議会が開催されましたが、その発展的解消をふまえた上でもって、新たな一步を踏み出すこととなりましたから、皆様方に本日からの会議から活発なご意見を頂戴して、この市をどこの市よりもすばらしい市になるように努力していただくことをお願いいたします。

副会長（島内委員）挨拶

先ほど、市長がおっしゃったように（仮称）健康なまちづくり条例は日本で最初でして、健康な領域と言うのは、医療だけでなく生活を豊かに

していくと言うのが大変重要な項目です。

ヘルスプロモーションという言葉が先ほどから出ておりますが、同じ時期からセーフティープロモーションいわゆる安全の問題や虐待や事故などのセーフティーなこともヘルスプロモーションという言葉には含まれております。そういう意味では、習志野市の市長や三師会、各種団体の皆さんが市民の健康に関して積極的に取り組むというのを心より期待しているところです。平成21年から文部科学省も、小中高、特別支援学校の保健体育の授業を通してヘルスプロモーションの考え方を教えることが決まっております。保健体育教諭、養護教諭を含め、今日われわれが審議するような内容については、早い時期から子どもたちに語り続けていくということが決まっております。そういう意味では習志野市が大きな旗を掲げて全国、アジア、世界に発信していただければと期待を込めて委員の一人として頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。

—————市長 公務により退席—————

○議事

報告事項

- ①健康なまちづくり推進体制と今後の予定について
- ②（通称）健康なまちづくり条例の周知について

事務局より、資料を使い説明

質疑応答

会 長：冒頭から言われているように、大変よい条例ですが具体的にどのように取り組むかですが、今日いらっしゃっている方でも、たとえば、私は医師ですし、歯科医師、薬剤師、保健所さんなど、普段から健康に取り組んでいる団体は捉えやすいですが、商工会議所などの団体はどのような取り組みが望ましいか、また、今回の資料には載っていないのですが、どこまで市の色々な団体を対象として考えているのかの二点についていかがでしょう。

事務局：団体につきましては、先ほど商工会議所が出ましたが、青年会議所もそうですし、市民活動団体でも、民生委員児童委員さんであるとか、すでに引合がございまして、この健康なまちづくり条例についてどのような条例なのかという事でそれぞれの会議の中で説明をして欲しいとお話も頂戴しております。そのような場には、出向いて詳細に説明させていただこうと思っておりますが、それ以外にもまちづくり会議と言うのがございますので、そこでも周知をさせていただきまして、たとえば商

店会とか個別に説明に伺って、どこまでできるか解りませんが、積極的に周知をさせていただきたいと思っております。

会 長：それでは、現段階であらゆる団体がリストアップされているというわけではないのですか。これからですか。

事務局：今年度は、とにかく周知をさせていただきたいと思っております。先ほど申しあげました健康意識調査は別としまして、私どもの健康支援課でどれだけ積極的にやるかどうかで、市長からも話がありましたように、絵に描いた餅になってはいけませんので、個別具体的に小さな団体まで積極的にやっていきたいと思っております。

会 長：そうしますと、日常で病院や医師会、歯科医師会、薬剤師会のような疾病、健康に取り組んでいない団体も大いに参加していただいて、それぞれのポジションから今後参画していただくとのことです。

事務局：その通りです。

会 長：ありがとうございます。他にございますか。

A委員：健康なまちづくり条例を具体的に説明するという事が大切だと思うのですが、具体的にと言っても、健康をつくりましょう、健康はこうですよと言うのだと、わかりづらいのかなと思いついて、一つ目標を掲げるのがいいのかなと思うんです。

今、一番問題になっているのは「たばこ」喫煙の問題ですね。私に関係している市長も、副市長も入っている団体で、生活習慣病を考える市民と医療者の会（通称）小象の会と言うのがありますが、活発に市民の中に入って活動しています。今度6月8日土曜日にシンポジウムを開きますが、各会社で煙草に対する害とか、煙草に対するお話をするという事で、多くの企業で参加をしてもらえとの話も伺っています。具体的なものを決めて行った方が、商工会議所などにも入っていただけますので、一番真っ先に受動喫煙の問題がありますので、そのように具体的に進めていったほうが解りやすいかなと、一つの目標を掲げて行った方がやりがいもあるし、結果が目に見えてくるのではないかなと、私はそういうやり方をしておりますけれど、いかがでしょうか。

B委員：今のお話ですけれど、先週の木曜日、私はグリーングラスという健康サークルで体操をやっているんです。そちらの会が2年後に35年になるんですが、そちらの会に保健師さんが、健康なまちづくり条例が出来ましたがみなさんご存知でしょうか。と、パンフレットをお持ちいただきました。私はそれ以前にこの会議の通知もいただいておりましたので、真っ先に手を挙げて、よく気が付いていただいて、でもすでに2月と4月の広報

にも掲載されておりましたし、具体的にはまだわかってないの
ですけれど、保健師さんから全員に条例のパンフレットをいた
だきましたし、少しずつ浸透していると思います。私どものサー
クルにも来ていただいてありがとうございました。

会 長：ありがとうございました。A委員の、目標を掲げるという事に
関して、どなたかあるいは事務局ご意見がありますか。

事務局：A委員、貴重なご意見ありがとうございました。おっしゃる
とおり、具体的な所が解らないと、なかなか進めて行けないと
言うのが、よくわかりました。検討させていただきたいと思
います。また、今お話いただいた受動喫煙の部分以外でも、我々
で模索しまして進めさせていただこうと思います。

真殿部長：A委員からお話がありました具体的な目標を決めてという部分
につきまして、これは皆様に今後ご審議いただきますが、健康
なまちづくりの基本計画を策定してまいります、その計画の中
で具体的な目標を掲げてそれに向けてまちづくりをしていくと
いう形になるかと、その計画ができるまでの間は、この条例
が出来たけれど、なかなか進展しない部分もございます。
そういった意味では、これはまだ決定事項ではありませんが、
習志野市として健康なまちづくり宣言をするとかそのようなも
のも考えていけるのかな、と委員さんのお話を聞いて思った次
第でございます。

会 長：ありがとうございました。A委員とB委員から取組み等に関し
て意見がありましたが、その他質問、あるいは各委員さん方の
団体はこの健康なまちづくり条例に関して、どのように周知し、
今後どう検討しているかその辺をお聞きしたいと思いますの
で、C委員から順にお願いします。

C委員：歯科医師会としては、高齢者の健康寿命には自分の歯で食べる
ことが、すごく大事なので、それに非常に力を入れているん
ですが、妊婦さんが市に行って、母子手帳をもらう時に妊婦さん
に渡すリーフレット、幼稚園に入る時のリーフレット、小学校
中学校に入る時のリーフレット、高齢者向けのリーフレット、
働き盛りの40代50代の口腔内と全身疾患との関係とすること
で、口の中の歯周病等の疾患が全身疾患に非常に関連がある
というのを、市民の方向けにリーフレットを制作していて、もう
すぐできる予定ですが、歯科医師会としては、小さな子ども
から高齢者まで、一生使えるようなリーフレットが出来上が
りますので、市民の方に配布をしていきたいと思
います。

今、40歳50歳60歳65歳70歳75歳80歳の健診制度があり
ますので、その方たちが口腔歯科診療所に来て、健診を受けた
時に煙草もそうですが、リーフレットの中には煙草の害なども

書いてあり、歯科医師会全体で啓発しております。

会 長：ありがとうございました。A委員、先ほどの受動喫煙のお話以外でも何かありますか。

A委員：個人的に感じているのが、心の健康ですね、心が健康でないと言うのを日々感じています。からだの健康は、治療で治りますが、心を病んでいるとか、そういう方が多いのを日々感じています。相談したり、お話しはしますが、睡眠薬や精神安定剤の常用が多いと言うことで、どこかで心のケアをしていかなければ、健康な体にはなっていないし、心を健康にしていかなければいけないと、常日頃思っております。今後、どうしたらよいかと考えていきたいと思っております。

それと、先ほど市長が風邪をひいて・・・って話をしておりましたが、人間、風邪をひくのは当たり前で、ひかない人の方がおかしいかなと思うんですが、風邪は万病の元と言うので、風邪を風邪だけで終わらせる、万病に持って行かない、風邪でとどめておくと言う心がけをいつも待たれた方が、風邪をひいちゃいけないと思うとプレッシャーにもなって、心を病むので風邪ぐらいひいていいと思いますが、万病の元にならないように気を付ける方がいいというのが、今日の感想です。

会 長：ありがとうございました。D委員お願いします。

D委員：病院という所は、健康を損ねた人が来る場所なので、習志野市民全員が健康になると病院はいらなくなってしまうのですが、仕方がないかなとも思います。

病気になられた方を見て思うのは、普段からご自分の健康を過信されたり、又は、避けて通ってる方が多いので、例えばがんにしても、97%ぐらいの人がポリープを経過して来るんですが、ポリープのうちに見つかればわずか数日の入院で、がんにならずに済む。または特定健診はまだあまり進んでおりませんが、メタボリック症候群を日頃防いでおけば、動脈硬化も防げて、心筋梗塞にならずに済むとか、お年寄りがよく転倒して骨折という事も聞きますけれど、普段からよく運動をして筋力を鍛えておけば転ぶこともないでしょうし、転んでも大きな怪我にもならない。日頃から自分の体を見つめて鍛えておくというのが必要だと思います。

そのあたりを市として目標に掲げていただいて、予算を支出していただくにより具体的に運動が進んでいくのではないかと考えています。

会 長：ありがとうございました。E委員お願いします。

E委員：私どもは県の出先の立場で、公衆衛生の見地から健康に取り組んでおります。習志野市さんには大変積極的に先駆者的な取り

組みをしていただいて感謝申し上げます。色々な面での業務連絡会もありますので、そういった中で色々調整させていただきながら、より効果的な業務提携をしていければと思っております。それからこれは一つのコメントなのですが、先ほど、A委員からも具体的にどの意見もありましたが、計画を見ますと、早速、健康調査を実施するとのことですが、具体的に色々なことについてどこまで詰められるかという事をかなり想定しておかないと、調査の結果にも影響するのではないかと思えます。ですから、いろいろなことを具体的に考えながら健康調査に入るとその後の計画に、具体的に入れやすい調査結果が求められると思えます。

会 長：ありがとうございます。 F委員お願いします。

F委員：習志野市小中学校校長会という事で、市内小学校 16 校、中学校 7 校、小学生が約 9,000 人、中学生が約 4,000 人います。加えて習志野高校も市立で、1,000 人おります。幼稚園、保育所には各々1,200 人前後だと思えます。だいたい1 学年の平均が 1,300 人ぐらいだと思えます。多くの子どもたちを預かる学校として、一番大事だと思う事は、まずは健康です。健康なのですが、病気にならないと健康を意識しないというのが小中高を通じての意識でしょうか。健康とは、これまでの健康教育の分野だけではなくて、やはり食育。食べること、もちろん体育という体力面、そしてもう一つ先ほどからも出ておりますが、心の面の健康を学校ではやって行かなければいけない。それこそが、副会長ご案内のヘルスプロモーションの総合的な子ども達へのアプローチかなと考えております。

学校では、さまざまな取り組みをしておりますが、いかんせん子どもは元気だという意識がありますので、まず健康ということについて着目するところからまずは出発かなと思っております。

条例の周知に関しては、市民は広報習志野で見っていますが、学校の職員は、市外の者も多くおりますので、4 月 24 日に校園長会議がありまして、その折にこのパンフレットと、風しん等のチラシの説明が健康支援課からありました。その後、各学校で、職員に周知をしていただく、これから条例と風しんの予防接種について、各ご家庭の方に周知をしていきたいと思っております。ただ、いずれにせよ条例を知ることが目的ではなく、子どもたち、市民の方の健康を保持増進させて行くというのが一番大きなポイントなのかと思うんですが、先ほどから、アクションプランというか、なんか行動を起こさないとダメだということがあって、実は昨年度から中学生を対象に、血液の検査

を行って、生活習慣病について調べてみましょう、という動きが出ています。同様なことは近隣の市においても小学5年生と中学生を対象に血液検査を、希望者に実施している市もあります。色々な意味でお金はかかりますが、大きな媒体である学校という所を通して、できること、少し時間をかけてでもやらなければいけないことと考えております。

A委員：今回習志野市で初めてだと思いますが、厚労省と文科省の補助金が出まして、子どもたちに一学年通して血液検査をさせていただきます。親御さんがなかなか検査に協力的でないので進まなかったのですが、習志野市では、市長、副市長、教育長が協力して下さって、7月に実施することになったので、生活習慣病に関する血液検査が、できると思うんですが、すると全国初になると思うので、是非それを実施できることを期待して、また、これは文科省等の助成が出るものなので、お金もかかりませんので、そのようなものがありましたら、手を挙げていただき、PTAのお母様方にお話して了解が得られましたのでそのようにやっていけたらと思っておりますので、ご協力いただければと思います。

会 長：ありがとうございます。続きましてG委員お願いします。

G委員：あじさいクラブ連合会は、年々平均年齢が上がって入会する方が少なくて、四苦八苦しております。今のところ2,500名くらいになってしましまして、皆さん一生懸命70歳以上の方を勧誘しているのですが、取り組みとしましては、専門的なことはできませんので、皆さんお年で職業から離れて毎日遊んでる方ばかりですよね、その中でどうやったら健康を保っていけるかという事で、県の方からも色々援助していただきまして、24年度は支え合いという事で、介護の仕方、食事の介助と、講演など、実技と講義をいたしました。今年もそれに習いまして、今年市内を歩こうじゃないかということ、5月の総会で提案しようと思っておりますが、月に1回、7,8人集まればいいかなと思うのですが、それを一年間やって行こうと思っております。あと、グラウンドゴルフ、パークゴルフ、ペタンクとか老人の方に無理なく楽しんでプレーして頂けるような競技をやろうと思っております。市民全員という事に話を持ちかけるんですが、向き不向きもございますので、どれくらい集まるか、皆さんに浸透するか解りませんが、25年度は健康支援課の方にも色々援助いただいて、あじさいクラブ連合会としてやっていきたいと思っております。

会 長：ありがとうございます。H委員お願いします。

H委員：市民代表として参加しておりますが、色々な周りの人に条例が

出来るんだよと言っています。そして、いろんな不安を皆さん持っていて、どのようなことがあるかと言うと、若い人達、私ごとですが、最近双子の孫が出来たのですが、放射能の関係とか、食品添加物、そしてやはり心の問題など、若いお母さん達も不安な思いでいっぱいしております。

私たちの年齢になると、健康で長生きできるか、長生きできるかはわかりませんが、いつまで健康でいられるかっていう不安があって、実は健康診断の仕事にも携わっているのですが、意識の問題がありまして、すごく意識の高い方は健診のデータが、ちょっとでも異常値になると、過度に何かの病気ではないかとすごく不安になってしまったり、逆に、糖尿病が治ったと言って、調べたら、数値が高かったり、パソコンを開いたら色々な情報がたくさんあって、何が正しい情報なのかわからない、そのような不安もあるので、市民の代表としてわかりやすく、みんなに健康について伝えていけたらなと思っております。

会 長：ありがとうございました。

I 委員：総合型地域スポーツクラブと言うのをみなさんご存じでしょうか、どんなことをやっているでしょうか、これがなかなか浸透しなくてですね、四苦八苦しているのですが、全国では 3,396 くらいございます。その中で千葉県は 71 団体なのですが、これは平成 10 年か 11 年頃に文科省が、全国の市町村に少なくとも 1 つ以上の総合型地域スポーツクラブを作って、運動してない人、スポーツがやれない人をどんどんそういう場に出てきてもらうようにしようという、文科省の主導で始まったもので、習志野市は、平成 11 年にスポーツ振興審議会の会議がありましてそこから育成が始まった訳です。現在、市内 3 つの市として育成したクラブがございます。NBS（習志野ベイサイドスポーツクラブ）七中学区、私どもは、東の方のイースタンスポーツクラブ、それから大久保・屋敷方面に中央スポーツクラブ。この 3 つのクラブが、現在会員数として全部で 1,000 人ちょっとですが、日々活動しています。で、私は先ほどからお話に出ているとおり、体の健康プラス心の健康を保つことに寄与するような活動だと思っております。年間に 1,000 人の会員が述べ 40,000 人ぐらい日々参加をしております、種目も色々なものがある、競技スポーツもありますけれど、先ほどもお話にあったペタンクとかグラウンドゴルフ、ユニカールなどを日々楽しんでおります。もちろんその中では、まだ小学校に入ったばかりの子どもたちの育成という事も念頭において、キッズのプログラムも行われております。

そんなことで、この条例については、イベントがあるごとに

話しをしておりますが、みなさんが毎日スポーツ活動しながら交流して、絆を深めていく事自体がこの条例に合致するという話をしております。ちなみにこの間、朝日新聞で見たのですが、毎日運動する人としらない人では医療費が年間 10 万円違うそうです。ですから、1,000 人の会員で市には 1 億ぐらい寄付してる、このように自負しております。

会 長：ありがとうございました。

J 委員：母子保健推進員の立場からですが、子育て支援活動を習志野で活発にやっております、各幼稚園、保育所、市で行っているふれあい広場など色々ありますので、その活動の中でお母さんとお子さんの健康のことの PR が十分できるかと思えます。産後うつっぽいママさんにお会いしたことがあるのですが、そのあたりの精神面でのケアが出来たらいいのかなと思えます。それと、周知については結構、私の住んでいる地域では活発でして、集会場で色々な体操をやったり、公園を使って太極拳をやったり、「年齢とともに健康で歳を重ねて行こう。」を目標にして地域活動の中で色々なボランティアの方が支えになって活動しておりますので、掘り下げて行けば出てくるのではないかと思います。

会 長：ありがとうございました。

K 委員：みなさんがすばらしいことばかり言っておられるので、私は何を言っているのか解らないのですが、私のがん患者の会では、がんになってしまった人が悩み相談のように電話をかけてくれればいいと思って、旗を揚げているんですが、はじめは 2 人ではじまって一番多いときには 9 人いたんですが、2 人やめて 1 人亡くなってますけれど、がん患者のためにはお医者さんのほしくれぐらいのことは知らないといけない、白血病だとか薬はどうか、悪性リンパ腫には薬があるとか、どんな種類があるとか、私は前立腺がんをやって、肺がんをやって、肺がんが再発して、もう一度手術して脳梗塞をやって、心筋梗塞やって病気は色々やって楽しんでるんですが、生きてるんだから健康でしょう。心の方も健康ですよ、多分。

ただ、お役に立とうと思って電話の内容を紙に書いて、こんな会がありますよというのがスタートだと思うんですよ。A 委員が言っていたように、みんなでまちづくりをやっていると煙草の禁煙のグループが多いんですが、以前、生活習慣病についての医者の講演会を聴きに行ったんです。そこで、最初に手を挙げて質問したのですが、医師免許を持ったら、煙草を吸ってはいけない、吸ってる人の医師免許は取り上げたらどうかと言ったんですが、それはダメですと病院の偉い人たちもみんな

煙草を吸ってるとのことでした。ですから、難しいですね。

いままでの皆さんの話のように、いろんな人達がこんなことをやっているというのをあげて、それがスタートラインだと思うんですね、健診とか、がん検診になかなか難しいですね、目標だけど、実際にどうやったら検診に人が来るようになるか、それは難しいです。私などは学校に行って命についての講演会をやってあげようと思って、教育長のところに以前実績がありますよと行ったんですが、空振りで、谷津の公民館でシニアクラブをやってらっしゃる方がいるんですが、その人に頼まれて、その人が悪性リンパ腫だったので、悪性リンパ腫の勉強をしてその話から、大腸がんとか肺がんの事を話したんですが、なかなか講演をやろうと思っても、昔は大きな組織にいたので、要望があって行きましたが、今はインターネットで何でも調べられるんです。今日持ってきたのですが、風しんの話があるのですが、風しんは女性がかかると大変なことになる、男性の方がかかりやすいそうですね、女性は妊娠してる時期に予防注射をしてはいけならしいですね、そういう事を考えると、小さいうちとか中学生から風しんについて教えてあげなければいけないと思うんです。以上です。

会 長：ありがとうございました。

B委員：私は平成16年に習志野市がモデル地区として始まったいきいきサポートクラブで、保健師さん指導の下で1年間、健康をいかにして保つかという事を勉強というか、皆さんで集まって在宅型と体育館の方まで行ってする勉強をしました。

太っている人はなかなか痩せない。痩せてる人はそれ以上に締まってしまうというのは周りを見て思ったんですが、自分が第1期生ということで仲間も増えましたし、学習圏の代表でこの会議にも参加させていただいているのですが、学習圏の方に帰りまして、経験を話す機会がありましたので、第1期で大変楽しく充実している毎日を過ごせて、という話をしたら第2期第3期、今はもうなくなってしまったようですが、情報があるという事は、素晴らしいことなので、先ほども申しましたように、先週の木曜日にも早速この条例をお持ちになっていただいたので、学習圏に帰りまして活字で見ただけでは解らないので出前講座という事で実際に来ていただいて、何回かお話を聞いていると実態感が出てくるのかなと思います。

今日も、色々先生方のお話を頂戴して身に余る光栄だと、毎回会議に出させていただいてとてもいい時間が過ごせていると思います。ありがとうございました。

会 長：ありがとうございました。最後になりましたが、医師会の方か

ら今考えている取り組みを説明させていただきます。

医師会は、疾病になってから関わりがでてくるところですが、疾病にならないためにはどうしたらよいか、そのへんの事を含めて、市民に対しての公開講座を本年度も計画しております。一つは7月13日にK委員がおっしゃってました前立腺がんですね、前立腺がんに関しても、習志野市は千葉県下でも先進的に検診システムを確立しております、その検診システムのお話と、分かりやすいように市民に向けた公開講座を予定しております、大久保にあります市民会館で開催します。

続きまして、9月の28日土曜日には、認知症に関して、これも埼玉県から著名な講師をお呼びする予定でございまして、わかりやすく講演して頂くのと同時に認知症に関係している家族の会、それから医師、訪問看護師、ケアマネージャーなど関係する人たちをお呼びしまして、シンポジウム形式で計画しております。認知症が今年の8月の段階で日本で300万人を超えています。習志野市でも急速に増えてございまして、実は、数年前の予想をはるかに上回る勢いで増えております。今後医師会としては、例え認知症になっても穏やかな気持ちでこの街で過ごすような理想の形を模索しまして、計画しておりますので、パンフレット等ができましたらよろしく願いいたします。

また、この件は保健福祉部と合同で計画してございまして、市を挙げての会になりますのでよろしく願いいたします。以上です。

それでは、今回出席委員の方のご意見と今後の方向性についてのコメントを島内委員にお願いします。

副会長：すごく活発な意見が出ていたので驚いております。行政の委員会と言うのは、黙ってシャンシャンで終わらすのが多いのですが、習志野市はすごくやる気に満ちているなと思いました。

そこで、健康なまちづくり条例という事ですので、ヘルスプロモーションの考え方、英語ではヘルシーシティーズって言うのですが、1980年代から世界で特にヨーロッパ中心に一般的な言葉になりました。そんな中で特に大事な点は、この健康と言うのは、ヘルシズムになってはならない。ヘルシズムとは何かと言うと、病気・障害がないことがいいことだと、いいことならまだ、正しいことだと市民・国民が思い込む。ここから、逆に病に伏した人に対しては、プレッシャーをかけてしまう。極端に言うと差別的な、病になった人を偏見に満ちた形で差別してしまう。それが、大前提で、もちろん健康寿命と言うのが皆さんの望みですから、身体的、精神的、社会的良好は誰しも望んでいること、それに対して従来は医学中心に予防と言うか、治

療、リハビリをやってきたわけですね、ヘルシズムを一つ警戒するための新しい考え方としては、日本は昔、無病息災と言っていたんですが、今は一病息災、例え、病気や障害を持っていても、イキイキと生きる、生きようとしている姿に健康はある。そのように考えますと、1977年からWHOが世界に発信した、全ての人に健康がみえてくる訳ですね、その意味で私は基本的にいつも考えていることは、人間は死を免れない存在である。その限られた命の中で、いかにイキイキと生きるかと言うことは、先ほどの各種団体の方の意見をお伺いして、もうすでに健康なまちづくりの基本が出来上がってきているなど、例えば、病気になったらどこ行くのと尋ねると、病院や歯科医、薬局に相談に行く、いわゆる保健医療従事者に対して依存傾向にあったんですね、では元気な時はどこ行くのと聞くと、ディズニーランドとか世界一周とか、あるいは温泉に行くとか、実は、健康をつくる過程はそこなんです、たとえば習志野市のまちで言えば、行きつけの飲み屋、居酒屋が自分にとってヘルシーであれば、そこで健康を獲得している訳ですね、素敵な買い物をする場所があれば、そこに行く時にワクワクして服を買おうか、何か欲しいなど、市民の動く場所がヘルシーであれば、市内には素敵なウォーキングロードもありますよね、そういった街並みがいいというのも実は健康なまちづくり、人の健康を支えているという重要な要因なわけですね。

皆さん各種団体ですが、楽しいですか。ヘルスプロモーションというのは、誰が責任を取らないといけないかと言えば、団体のトップなんです、例えば、学校で言えば養護教諭の先生とか、保健体育の先生、困ったら三師会に頼むっていうように、校長先生は逃げていたかもしれないが、校長先生が責任を持たなければいけない。その組織を預かるトップが健康的な姿を見せながら、例えば、学校では校長先生がいつも酔っぱらっていて、肥満体質でといったら、モデルとしてはダメな訳です。それぞれのグループの責任者がまずいきいきとする、それぞれのグループの中で、やれることをやっていく、できないことは絶対にやらないことです。まずい方向に向かいますので、それぞれの団体が出来ることをやる、それを市民にもできることを語り続けていくという事が健康なまちづくりの、われわれ審議会として今後習志野市民がより、先ほど言ったような意味での健康で幸せな生活ができる。おそらくは、直感的ですが、このグループの皆さんのお話を伺って、すごくいい方向性が打ち出せると思いました。大事なことは何が正しくて、何が間違っているというものではありませんので、まずはできることからやり

		<p>ましよう。というコメントで終わらせていただきます。</p> <p>会 長：島内委員ありがとうございました。委員の皆様も随分力をいただいたような、パワーをいただいたような気がいたしました。それでは、これで本年度の第一回健康なまちづくり審議会を終了させていただきます。</p>
--	--	---